



弄花
田



N12
5090

3

<2001-056>

行考

少りけり

高木柱

梅枝

有妻系

口の上

同 下



行考 望並源氏世十二月ヨリ望年二月廿七歳ニテ

くむりいそわさう 玉乃成源氏をむりけり

は事なりけりこゑ 二ノ事有はは事い叶下り在行海

さそ興ひをりあけりあり 月乃行の玉乃の事

ゆゑ之源氏をむりあうハメ今事なりモウニヤル也

ナニナニ 女系也

わんたゑんまの かりこゑ例り

かりこゑんまの 望年乃りまねあはれすりさうあり

そゝわんたゑんまの かりこゑんまの

ふゑんまの かりこゑんまの 頼基大御ヨシムト長若年御親

けりこゑんまの かりこゑんまの 二ノ事有はは事い叶下り在行海

ハナニナニ 二ノ事有はは事い叶下り在行海

一ノ... 用... 源... 内大臣...
み... 源... 内大臣...
み... 源...
内大臣...
十六日

源... 源... 源...
源... 源... 源...
源... 源... 源...
源... 源... 源...
源... 源... 源...

源... 源... 源...
源... 源... 源...
源... 源... 源...
源... 源... 源...
源... 源... 源...

源... 源... 源...
源... 源... 源...
源... 源... 源...
源... 源... 源...
源... 源... 源...

か得いころ方りてし 毎々八たき

は河が舟を御免汰たうくさ終るらん

こころいふらん 至無上神 兄弟共申す計り

心ゆく言くしり言の言下と魚のまきりしモアラキ

とて涉るる

申得いころ方りてし こといふらん

たまたまのつらりサレモリ終るヨルこと

舟といふけりし 舟といふらん終るらん

胸しよとまきり 舟といふらん

ひるる 秘え 秘らんあしたとふい

うらなを思ひし 舟といふらん

舟といふ 舟の舟といふらん

世人いふらん 舟といふらん

舟といふらん

万七

櫓衣者事跡の時時徒欲能可命

櫓解漕衣し候時欲け可命

少らけり 源氏年表七月九月ノこと

我身考くことかめし 舟といふらん

舟といふらん 源氏内大臣の終るらん

舟といふらん

舟といふらん 此明の心

くねん多し 志意西ラチケリ

内りとそくろり内り 久し世路ふろり内り
中ニテハナレリ

人ハ多クモ 三米大更ナクニ始とあ暮しニケリ

寒ニ玉出ラ 社母胎ラキ始をやう女始をそり

暮冬名ニケリ 日月しセ始をそり 三月廿日と有の

事知中將 夕暮暮れと暮んそり 飛出りそり

冬蘭英ニ暮るん 伊一始ニケリ

おろろり 冬行海

形分志内り 玉内り然シケリ

三内りろり内り 源氏と内り

ナレ

内り内り 夕暮ろり

くねん多し 志意西ラチケリ

内り内り

くねん多し 志意西ラチケリ

内り内り 夕暮ろり

くねん多し 志意西ラチケリ

くねん多し 志意西ラチケリ

くねん多し 志意西ラチケリ

くねん多し 志意西ラチケリ

くねん多し 志意西ラチケリ

くねん多し 志意西ラチケリ

くねん多し 志意西ラチケリ

あしよりいかりあまやん 女房のむらさきのさくらさくら
色くみ中ねし侍り

くさくさる 或はくさくさるさくさる

百株鞠とさくらいさる 一助もさくらさくら

力者くさくさるさくさる

大ね中ねのさくらさくら 舞臺大將さくら

みち中ねえ

まゝの女侍 一はまの女侍

おんま 婿さく 九月

弁の行り 女房さくらさくら

初めいと ともさくらさくら さくらさくら

ついでさくら 女房のむらさきのさくら

けいさくさくらさくら

かきさくらさくら さくらさくら

女房のむらさきのさくら

さくらさくら

馬牛相 源氏七公女房の明年秋さくら

始に玉かわらさくらさくら

さくらさくらさくら

えんさくらさくら 弁の行りのさくら

えんさくらさくら さくらさくら

舞臺のさくらさくら 女房のむらさきのさくら

ツラクもウツク念せし縁せし心持のふらふらゆき
移さし縁せきみくしの心持のふらふらゆき
すくわらうし心持のふらふらゆき

心持のふらふらゆき 内太長子と念せし心持
すのふら ありありと縁せし心持
ありありと縁せし心持

ありありと縁せし心持 非中にて心持のふらふらゆき
ありありと縁せし心持 ありありと縁せし心持
ありありと縁せし心持 ありありと縁せし心持

ありありと縁せし心持 ありありと縁せし心持
ありありと縁せし心持 ありありと縁せし心持
ありありと縁せし心持 ありありと縁せし心持

ありありと縁せし心持 ありありと縁せし心持
ありありと縁せし心持 ありありと縁せし心持
ありありと縁せし心持 ありありと縁せし心持

ありありと縁せし心持 ありありと縁せし心持
ありありと縁せし心持 ありありと縁せし心持
ありありと縁せし心持 ありありと縁せし心持

ありありと縁せし心持 ありありと縁せし心持
ありありと縁せし心持 ありありと縁せし心持
ありありと縁せし心持 ありありと縁せし心持

ゾーヤシ 冥たれん

ひりやく 前よりしり葉の火取しんる

中ねの任事土捕 無言者今身一助 向論ナリ

百式をたまき 涙を痛にけうはすま向論

折こころいり 舞止の方りのむひん

まは是しんるまうりぬ

笑乃にるん 内よりけりけり母の信

ひりりゆ 任事の時ゆは痛む文い

折ひりし種母のつひ 文子より取斗

ましてこのやうん 文子より取斗

まはんしんるまうりぬ 文子より取斗

ひまこき ありと折のきしんる

ひまこき ありと折のきしんる

ひまこき ありと折のきしんる

ひまこき ありと折のきしんる

ひまこき ありと折のきしんる

ひまこき ありと折のきしんる

ひまこき ありと折のきしんる

ひまこき ありと折のきしんる

ひまこき ありと折のきしんる

ひまこき ありと折のきしんる

ひまこき ありと折のきしんる

ひまこき ありと折のきしんる

それよりとて 昔々其のまゝに 大将方よりとてつゞき

大将の志がらなり新うま戸牛とよちり

みまがりきりけりし 源氏今トクニキリヌキヨリ

主上ラニシ

みまがりけりし かくしのま

みまがりけりし かくしのま

みまがりけりし かくしのま

みまがりけりし かくしのま

みまがりけりし かくしのま

みまがりけりし かくしのま

みまがりけりし かくしのま

みまがりけりし かくしのま

みまがりけりし かくしのま

みまがりけりし かくしのま

みまがりけりし かくしのま

みまがりけりし かくしのま

みまがりけりし かくしのま

みまがりけりし かくしのま

みまがりけりし かくしのま

みまがりけりし かくしのま

みまがりけりし かくしのま

みまがりけりし かくしのま

みまがりけりし かくしのま

みまがりけりし かくしのま

みまがりけりし かくしのま

みまがりけりし かくしのま

をきかすそーいしきさる 源氏ノリ

いさなりけりしちかしくさ 右を言ふるうらさし心

こころい 依業抄義奉と こころをいふこと

こまねししきさるしんあま本さうたひしり 時時 目まふ

ききさるし いふこと さい こころ

いさなりけりし 今さるれり いさなりけりし

いさなりけりし いさなりけりし

和琴止拍子ニハスヤキニ拍子ニハカヌとさるとさる

忌業は儀之持むりの方は時之りりし あかづら

いさなりけりし いさなりけりし

後漢杜詩階下也兵十有三年將帥執時士卒鳥

藻 言歡悦如鳥戲水之澤

いさなりけりし 源氏のさう思ナリ

いさなりけりし いさなりけりし

いさなりけりし いさなりけりし

いさなりけりし

後漢書列傳二十杜詩字
君河内汝人建武元年
歲中三遷為侍御史

いさなりけりし いさなりけりし 源氏の心は玉あら

いさなりけりし いさなりけりし

いさなりけりし いさなりけりし

いさなりけりし いさなりけりし

いさなりけりし いさなりけりし

いさなりけりし いさなりけりし

いさなりけりし いさなりけりし

ふりあつて
いふ内侍の房に密法を以て格に冬にうり思ひ
又うり又御アハルに一言何れをうりてのりきす
四々八八と云々御と云々居ナリモハルモスル節り也
今世にモスケ内侍の房にうりアハルに

梅 源氏廿九

大貳のうりまのまり
は冬にうりて大貳にアハルから又其時大貳に
ちルト云々モアリ
大貳のうりまのまり

沈香
取和天

石侍男子と云制アハルに
るのうりのゆり思ふるなり
西院三条に東ノ對手ノえりわと云

同方ニ加増ノアラフに
香を重 この字にうりて一人

多々のまわりなり
ハハルに
前味は 樽味は

ちりすまをり
まわりのまわり
まわりのまわり

あつらひ ちぢし 或はあつらひていじ

さくらりい 黒方ニ編十儿をこねしけり又ハ松

をこねたるハ黒方ニ編十儿をこねしけり又ハ松

あつらひていじ

あつらひていじ

あつらひていじ

あつらひていじ

あつらひていじ

あつらひていじ

あつらひていじ

あつらひていじ

あつらひていじ

あつらひていじ

あつらひていじ

あつらひていじ

あつらひていじ

あつらひていじ

あつらひていじ

あつらひていじ

あつらひていじ

あつらひていじ

あつらひていじ

あつらひていじ

あつらひていじ

あつらひていじ

百年壽 東朝長 西平時人 志若々然

花人 柳ノ下ニありて

花人 柳ノ下ニありて 一葉をさきにさるやうしに花をさき

花人 柳ノ下ニありて

花人 柳ノ下ニありて 昔長君ニ侍侍アリキ心

花人 柳ノ下ニありて 昔長君ニ侍侍アリキ心

梅ノ下ニありて 昔長君ニ侍侍アリキ心

梅ノ下ニありて 昔長君ニ侍侍アリキ心

梅ノ下ニありて 昔長君ニ侍侍アリキ心

梅ノ下ニありて 昔長君ニ侍侍アリキ心

梅ノ下ニありて 昔長君ニ侍侍アリキ心

梅ノ下ニありて 昔長君ニ侍侍アリキ心

梅ノ下ニありて 昔長君ニ侍侍アリキ心

梅ノ下ニありて 昔長君ニ侍侍アリキ心

梅ノ下ニありて 昔長君ニ侍侍アリキ心

梅ノ下ニありて 昔長君ニ侍侍アリキ心

梅ノ下ニありて 昔長君ニ侍侍アリキ心

梅ノ下ニありて 昔長君ニ侍侍アリキ心

梅ノ下ニありて 昔長君ニ侍侍アリキ心

梅ノ下ニありて 昔長君ニ侍侍アリキ心

梅ノ下ニありて 昔長君ニ侍侍アリキ心

梅ノ下ニありて 昔長君ニ侍侍アリキ心

梅ノ下ニありて 昔長君ニ侍侍アリキ心

梅ノ下ニありて 昔長君ニ侍侍アリキ心

梅ノ下ニありて 昔長君ニ侍侍アリキ心

梅ノ下ニありて 昔長君ニ侍侍アリキ心

梅ノ下ニありて 昔長君ニ侍侍アリキ心

梅ノ下ニありて 昔長君ニ侍侍アリキ心

梅ノ下ニありて 昔長君ニ侍侍アリキ心

梅ノ下ニありて 昔長君ニ侍侍アリキ心

梅ノ下ニありて 昔長君ニ侍侍アリキ心

梅ノ下ニありて 昔長君ニ侍侍アリキ心

梅ノ下ニありて 昔長君ニ侍侍アリキ心

梅ノ下ニありて 昔長君ニ侍侍アリキ心

多々々々 兼 大東の巻 不入系巻

中一のひい

或る乃 吾志巻 まの巻 先帝成る

例志志之段 兼 合巻 不あるして例とらり

すくはてし 不慮じくく 兼 志し 兼 志し 兼 志し

ミクミク 兼 志し 兼 志し 兼 志し 兼 志し

のりり 兼 志し 兼 志し 兼 志し 兼 志し

兼 志し 兼 志し

兼 志し 兼 志し 兼 志し

兼 志し 兼 志し 兼 志し 兼 志し

兼 志し 兼 志し 兼 志し 兼 志し

兼 志し 兼 志し

兼 志し 兼 志し

兼 志し 兼 志し

兼 志し 兼 志し

兼 志し 兼 志し

兼 志し 兼 志し

兼 志し 兼 志し

兼 志し 兼 志し

兼 志し 兼 志し

兼 志し 兼 志し

兼 志し 兼 志し

兼 志し 兼 志し

兼 志し 兼 志し

六寸許 少寄東方菅田産一牧乃御座當々産南寺
六尺許 同田産為執事下田産

花のうゑ系 源成年世九まより久まより

あまのし 右のわし 中務文のしやうりこをせしめしり
しりくのこちまより 少寄を并産を産過せしり

三月廿日 大妻のしやうり 蘭冬にしやうりトニメり
又ニ三月トよりやアハ月ノ除脂ハ日次アセキ

ヨリノニメリトケ月ノ脂ハ廿日ニアタレト
逃向さう大妻ノしやうり日 三月ノ前冬ニ卯月ト勤冬ハ
烈今葉枝脂ハ行ケ月トニ天口其日数ヲヤルハ既今

三月廿日ノしやうりトケ月トアノ脂百十日シヤウノ公月ノ

廿日ハ百十日ニアタレト當時天口用ヤシトハ廿日数

百軒脂アリト重脂ハ其月ノ午ハ百軒又ハ共十ナ

脂中ニ用レ令ノ文ハ明シ 今廿三日ニ除脂ハ百九

十日ハウチラスニキアケラ除脂セリトハ是又日次

ナトニウチラスハ今メサレトハ除脂セリトメトアレ

ハモト相違ト仍注シ 既字令脂記条ヲ脂一年一

謂以十三日為除不計用月共五月次下ハ並ニ皆計月ト

クニ云フナカ

今寄々ははるまじ 大妻のしやうりノあまのし

いりてしやうり 今寄々ははるまじ 大妻のしやうりノあまのし

了れらる候也

いんりあーと思はてらんりさ

夕音同方よしとそと致はまとうふー

んうりさ 久ま有致仕致政キ

ほろこりく 世直らさこ

わりのうまのし 内之世同

空しくこしんし 移り候とと移らてきて

ち約こんをりかとうろい思とん 昨更のことうお

史しくふアーと

だまらの せ舟のりし思らん

りんばんさふ ちきり音り舟よりうまや戸ミル

うにちすたをこをねる内府をやうもトノ

とてかりこの妻の ともりかとき深らん

は箱落たむらりかをけしはちやケルしきとこしん

川に父にナルこと、あけの妻の意らん

ひやん 七字 ころあさみし

中ねのりし 中ねじんきりやまうり

りしすう血所引さのりしとそとちきりや

こまわりのいんぼん ちわんか

いさしやしPとつた何れも南のりし

夕音の致はましPおしりのやしと

それと夕音のいしとちや思く

のあかり

川は思とてんしんすすりし

ちきり心きりハアラスき舟の度らん

華トハ飛鳥のうらまのしるるやーはるる日事そ
まのつとまを問ははるるの華ゆつたれはしるる
しるるのしるるのしるるのしるるのしるるの
しるるのしるるの

ゆきりやーはるるのしるるのしるるのしるるの

空の明をよのしるるのしるるのしるるのしるるの
しるるのしるるのしるるのしるるのしるるの

はてはるるのしるるのしるるのしるるのしるるの
しるるのしるるのしるるのしるるのしるるの

その秋をよのしるるのしるるのしるるのしるるの
しるるのしるるのしるるのしるるのしるるの

た下とてはるるのしるるのしるるのしるるの

一節 平清盛のしるるのしるるのしるるの

つとまのしるるの

三条のしるるの

しるるのしるるのしるるのしるるの

はるるのしるるのしるるのしるるのしるるの

しるるのしるるのしるるのしるるのしるるの

しるるのしるるのしるるのしるるのしるるの

しるるのしるるの

しるるのしるるのしるるのしるるのしるるの

しるるのしるるの

祿七月のしるるのしるるのしるるのしるるの

康保三年十月廿二日上行書朱着尾のしるる

まじりまじりし 陸路のふかき山を越え

三つ石のうらみのたはしのうらみさうり

六条にそのまは陸路のついでに

つらりのや 一筋の厨子あつたこのうらみとつらり

それしやらまじり特約あり

池の魚とたをみかぬり

まじりまじりと右のつらみとつらみ

あつた 同いゆはまじりまじり

つらりのや 一筋はつらりとつらり

つらりのや 一筋はつらりとつらり

つらりのや 一筋はつらりとつらり

つらりのや 一筋はつらりとつらり

つらりのや 一筋はつらりとつらり

つらりのや 一筋はつらりとつらり

つらりのや 一筋はつらりとつらり

つらりのや 一筋はつらりとつらり

つらりのや 一筋はつらりとつらり

つらりのや 一筋はつらりとつらり

つらりのや 一筋はつらりとつらり

つらりのや 一筋はつらりとつらり

つらりのや 一筋はつらりとつらり

つらりのや 一筋はつらりとつらり

つらりのや 一筋はつらりとつらり

つらりのや 一筋はつらりとつらり

中洲の...
冷と漆との...
...

様

申下末例文

延喜式... 赤難漆色部赤白櫛... 深...
...

白櫛の名称如何

誠不審... 若赤色青色...
...

以上下官一條前開白問題... 今注入

わら上

冬名源氏... 源氏...
...

印

病者新

果名はの
ニ条は子

くくーき
禁布ちりモサ

二十ヶり
忌成かこりちり

ひち名
女三文ノ

とりのあ

内中
秋好の

三ヶり
ちり

中細
女茶達ノ

乙し
定とノ

あ

前
權

た

ニ
女三文ノ

弁
ニ

似
と

弁
と

西
白

内
海

う

か
海

う
と

う

中

そ
朱

とていふれぬ

朱着尾のふらり程

久々のけりかきし 柏梁歌 朱着尾にけり

幾人かたさちあつておもしろくまうとさ

同 女三三三のりあつておもしろくまうとさ

一劫 幾人かたさちあつておもしろくまうとさ

一劫 幾人かたさちあつておもしろくまうとさ

一劫 幾人かたさちあつておもしろくまうとさ

一劫 幾人かたさちあつておもしろくまうとさ

一劫 幾人かたさちあつておもしろくまうとさ

一劫 幾人かたさちあつておもしろくまうとさ

一劫 幾人かたさちあつておもしろくまうとさ

一劫 幾人かたさちあつておもしろくまうとさ

一劫 幾人かたさちあつておもしろくまうとさ

一劫 幾人かたさちあつておもしろくまうとさ

一劫 幾人かたさちあつておもしろくまうとさ

一劫 幾人かたさちあつておもしろくまうとさ

一劫 幾人かたさちあつておもしろくまうとさ

一劫 幾人かたさちあつておもしろくまうとさ

一劫 幾人かたさちあつておもしろくまうとさ

一劫 幾人かたさちあつておもしろくまうとさ

一劫 幾人かたさちあつておもしろくまうとさ

一劫 幾人かたさちあつておもしろくまうとさ

一劫 幾人かたさちあつておもしろくまうとさ

一劫 幾人かたさちあつておもしろくまうとさ

一劫 幾人かたさちあつておもしろくまうとさ

一劫 幾人かたさちあつておもしろくまうとさ

一劫 幾人かたさちあつておもしろくまうとさ

祝言と朱着にる 浄源よりし

いふりりのおまるといふまはりおまるといふまはり
ありおまるといふまはりおまるといふまはり

同 六条にりしにきりしおまるといふまはり
しうりやうりおまるといふまはり

皇しくりおまるといふまはり
おまるといふまはり

同 浄源にりしにきりしおまるといふまはり
おまるといふまはり

おまるといふまはり
おまるといふまはり

浄源よりし

源一語

おまるといふまはり

おまるといふまはり

おまるといふまはり

おまるといふまはり

おまるといふまはり

おまるといふまはり

浄源

内政王一人 同 女官天親王宣下よりし

前ノ語

おまるといふまはり

おまるといふまはり

おまるといふまはり

おまるといふまはり

くろめさうすん ぐーれすみん

かづゆも ちり ちりゆも

いのりし ちりまのちり

くわつちりし ちりまのちり

ちりしちりわ ちりまのちり

ちりし ちりまのちり

ちりしちりわ ちりまのちり

ちりしちりわ ちりまのちり

六条に南のちり

ちりしちりわ ちりまのちり

ちりしちりわ ちりまのちり

ちりしちりわ ちりまのちり

ちりしちりわ ちりまのちり

ちりしちりわ ちりまのちり

ちりしちりわ ちりまのちり

ちりしちりわ ちりまのちり

ちりしちりわ ちりまのちり

ちりしちりわ ちりまのちり

ちりしちりわ ちりまのちり

ちりしちりわ ちりまのちり

ちりしちりわ ちりまのちり

ちりしちりわ ちりまのちり

ちりしちりわ ちりまのちり

ちりしちりわ ちりまのちり

ちりしちりわ ちりまのちり

ちりしちりわ ちりまのちり

ちりまのちり

おろそか

おろそか

おろそか

おろそか

おろそか

おろそか

おろそか

おろそか

おろそか

おろそか

おろそか

おろそか

おろそか

おろそか

おろそか

おろそか

おろそか

おろそか

おろそか

おろそか

おろそか

おろそか

おろそか

おろそか

おろそか

おろそか

おろそか

おろそか

おろそか

おろそか

おろそか

おろそか

おろそか

おろそか

おろそか

おろそか

おろそか

石下いしげのしきと遠くともくつらき事とらふ

下海げかいしりり如ごとく 一劫いつせつとぬれば

むと志こころがなきも 玉環たまわんのしり

長ながのはははし

りあつし 女にのままををままししととままししととまましし

中ちゆうででく

くくららしし 強つよききつつりりららままししととまましし

かかととししりり 西せいににととまましし

くくららししととままししととまましし 定じやうとと問もん

女にをを移うつりりのの心こころにに 定じやうとと問もん

れれををししととままししととままししととままししととまましし

定じやうとと問もんのの心こころにに

中ちゆうででくくららししととままししととままししととまましし

中ちゆうででくくららししととままししととままししととまましし

中ちゆうででくくららししととままししととままししととまましし

中ちゆうででくくららししととままししととままししととまましし

中ちゆうででくくららししととままししととままししととまましし

中ちゆうででくくららししととままししととままししととまましし

中ちゆうででくくららししととままししととままししととまましし

中ちゆうででくくららししととままししととままししととまましし

中ちゆうででくくららししととままししととままししととまましし

中ちゆうででくくららししととままししととままししととまましし

中ちゆうででくくららししととままししととままししととまましし

中ちゆうででくくららししととままししととままししととまましし

一劫合上之 此後の又々存のりりる々ニ集

心志と之 れ持

之の後のにゆきん心りの元志 二集の集に
りちうまのしーいむらむ

以てのりややまの車りしりりし

十者ふと三むし 又しん三むし

三身とよ 勝月世をくくくくくくくく

ふりしめき 三身とよのりしめき

ふとをりしけり

手付 そのさうすしり

百 手付の字しりてし 一得合之

年り成中し てり

約あみり きいせり

たのまおす あま

けーやるり

はな 勝月世をくくくくくく

こま 三身とよの存

新志 三身とよの存

志の 三身とよの存

り 三身とよの存

ら 三身とよの存

は 三身とよの存

あ 三身とよの存

わ 三身とよの存

きりつたあつちさの 明名中よりナニヤと

あつちさのあつちさ 嬢姐

ひらまのあつちさのあつちさ あつちさ

あつちさのあつちさ

あつちさのあつちさ あつちさ

あつちさのあつちさ

あつちさのあつちさ あつちさ

あつちさのあつちさ あつちさ

あつちさのあつちさ あつちさ

あつちさのあつちさ

あつちさのあつちさ あつちさ

あつちさのあつちさ あつちさ

あつちさのあつちさ あつちさ

あつちさのあつちさ あつちさ

あつちさのあつちさ あつちさ

あつちさのあつちさ あつちさ

あつちさのあつちさ あつちさ

あつちさのあつちさ

あつちさのあつちさ あつちさ

あつちさのあつちさ あつちさ

あつちさのあつちさ あつちさ

あつちさのあつちさ あつちさ

あつちさのあつちさ あつちさ

あつちさのあつちさ あつちさ

あつちさのあつちさ あつちさ

あつちさのあつちさ あつちさ

あつちさのあつちさ あつちさ

あつちさのあつちさ あつちさ

あつちさのあつちさ あつちさ

あつちさのあつちさ あつちさ

ふのせいで六多に寄る... 二条にん...
あつては... 味... けり...

近日 二条にの位...

... 二条にの位... 寄る... 味... けり...

... 二条にの位... 寄る... 味... けり...

... 二条にの位... 寄る... 味... けり...

... 二条にの位... 寄る... 味... けり...

... 二条にの位... 寄る... 味... けり...

... 二条にの位... 寄る... 味... けり...

... 二条にの位... 寄る... 味... けり...

... 二条にの位... 寄る... 味... けり...

... 二条にの位... 寄る... 味... けり...

... 二条にの位... 寄る... 味... けり...

仁明天曆... 二条にの位... 寄る... 味... けり...

又うらなれりくすいふいふをうらなれりく

河海抄大卷と申すの巻にありしうらなれりくすい

申すはまた二巻大卷にありしうらなれりくすい

申すはまた二巻大卷にありしうらなれりくすい

二百之内のふるま輝明の東の振らん東文の巻

りり同のふるま申すの巻ありし申すは河海

抄にありしなり

ひりあつりり物と申すなりしうらなれりくすい

りり申すなりしうらなれりくすい

申すはまた二巻大卷にありしうらなれりくすい

りり申すなりしうらなれりくすい

右大巻 河海抄

うらなれりくすい

た太息なりし

りり申すなりし

河海抄にありしなり

河海抄にありしなり

河海抄にありしなり

河海抄にありしなり

河海抄にありしなり

ひりあつりり物と申すなりし

河海抄にありしなり

河海抄にありしなり

河海抄にありしなり

河海抄にありしなり

河海抄にありしなり

河海抄にありしなり

ひらりととびりらるれば馬よりかまふべし

くま 大ねりゆりこ

内書一頁 一頁の半書に

あそおきこの 林のうき木といふゆりゆり

のいしものゆりこ

こらへんらそきしりよきまふ 長安守の

たのまゆいしきしと ながしとてきまふ

クニ方生れまふしとてまふし

ゆりのまきりまふ おのぬい

せふ 仙の うさりの まつらとて

ゆりゆりし 中まふまふをたてぬい

これのこころ 明石のこころ方にけり

まふれせんしとてゆりのまき 同書内書の一頁のまき

と年とて一と一劫まきまきまきとて今よまふの名

よきまきまきのまきまき

古の長日らとまきまきゆりのまきまき

ゆりゆりまきまきまきまきまきまき

まきまきまきまきまきまきまき

延長元永平法門徳生時父のゆりまき

しとまきまきのまきまきまきまき

しゆまきまきまきまきまきまき

らゆりまきまきまきまきまき

まきまきまきまきまきまき

まきまきまきまきまきまき

福作

しんまのらぬ 明名中まことんまうらわを

は年々の 入左之の詞

うらうらむのいよ 過て因果無量仙今より

シ佛のやせはじりそ又作祿の山王通にまうらわ

年ハ女さしり明名上月日の線ノ中宮度ノ春宮

うらうらに中海ニラカト書ノ四海ラタモチ路中

ハ小舟ハ殺者ノ身より彼岸にこころまじく俗者

多事五ノ勝斗ニ

水草まきくこと 古者僧都にり入時ノまうら

芝ノそし 是ままかうらりはまことハ入右園より明

しむらひくつとまうらり 月日らまうらり ありまのまうらるる今日とまうらり

十官より

今ハおかくまじい 松達方

はまうらり 伊の土法門

うらうらり 毛山より一終者

言まうらり 何海方 ち月只文やまうら

伊名ハうらりの 佛非滅常世是山ハのらまうら

かといまうらり 賊度ノ時ハ歌じりし及ちハのまうら

ハまうらり 明名とて

はまうらりまうらり ばまうらりまうらり

世洞よりまうらり ばまうらりまうらり

まうらりまうらりまうらり ありまのまうらり

ありまのまうらり ありまのまうらり

あつたうら 明石入石う且つて居候と
又の降りよきと 弟をもちりよきと
ハキキ 明石と

いづかののす 父のたつとて是
所中いづかのの 中ましけりて明石とのす
いしきとて 居りあつたうとのあつた
あつたうとて 悲の中まはし

あつたうとて 是れはあつた
まよふの 世にあらんといふと又あつた
一書 王子のあつたうとて 是れはあつた
東まらうのあつたうとて 是れはあつた
二居候う東まらうのあつたうとて 是れはあつた

あつたうとて 是れはあつた
あつたうとて 是れはあつた
あつたうとて 是れはあつた
あつたうとて 是れはあつた
あつたうとて 是れはあつた

あつたうとて 是れはあつた
あつたうとて 是れはあつた
あつたうとて 是れはあつた
あつたうとて 是れはあつた
あつたうとて 是れはあつた

ふたれをいふてはたのまじり
ありてはたのまじり
たふまじり

あつた年の所いふてはたのまじり

川名入りのまじりいふてはたのまじり
減せといふてはたのまじりいふてはたのまじり

そこのやー 川名入り

あつた年の所いふてはたのまじり

あつた年の所いふてはたのまじり

あつた年の所いふてはたのまじり

あつた年の所いふてはたのまじり

あつた年の所いふてはたのまじり

あつた年の所いふてはたのまじり

あつた年の所いふてはたのまじり

あつた年の所いふてはたのまじり

あつた年の所いふてはたのまじり

あつた年の所いふてはたのまじり

あつた年の所いふてはたのまじり

あつた年の所いふてはたのまじり

あつた年の所いふてはたのまじり

あつた年の所いふてはたのまじり

あつた年の所いふてはたのまじり

あつた年の所いふてはたのまじり

あつた年の所いふてはたのまじり

母はつとえきしく頼りてしと

昔は母の所をわづらへ

大方母の所をわづらへ

とつりわさるわづらへまはるつにまはるつあつした

ふすつつつつつつつつつつつつつつつつつつつ

まはるつつつつつつつつつつつつつつつつつつ

ひかりく わづらへつつつつつつつつつつつつつ

まはるつつつつつつつつつつつつつつつつつ

あかむつつつつつつつつつつつつつつつつつ

つつつつつつつつつつつつつつつつつつつ

まはるつつつつつつつつつつつつつつつつつ

つつつつつ

つつつつつ

つつつつつつつつつつつつつつつつつつ

思ひ

つつつつつつつつつつつつつつつつつつ

つつつつつつつつつつつつつつつつつつ

つつつつつつつつつつつつつつつつつつ

つつつつつつつつつつつつつつつつつつ

つつつつつつつつつつつつつつつつつつ

つつつつつつつつつつつつつつつつつつ

つつつつつつつつつつつつつつつつつつ

つつつつつつつつつつつつつつつつつつ

つつつつつ

つつつつつつつつつつつつつつつつつつ

つつつつつつつつつつつつつつつつつつ

うきとん...
あま...
うきま...
あま...

あま...

あま...

あま...

あま...

あま...

あま...

あま...

あま...

あま...

あま...

あま...

あま...

あま...

あま...

あま...

あま...

あま...

あま...

あま...

あま...

あま...

あま...

あま...

あま...

あま...

あま...

あま...

あま...

あま...

あま...

あま...

あま...

志望いふのしごとく 明名中書

はれしうま 正徳のうらうら

そと志望のしごとく 正徳のうらうら 桂桓忠の母の文

この後 源氏 大政 正徳上ト

大徳しうまのしごとく 正徳のうらうら

またしうまのしごとく 正徳のうらうら

またしうまのしごとく 正徳のうらうら

またしうまのしごとく 正徳のうらうら

またしうまのしごとく 正徳のうらうら

またしうまのしごとく 正徳のうらうら

またしうまのしごとく 正徳のうらうら

またしうまのしごとく 正徳のうらうら

またしうまのしごとく 正徳のうらうら

またしうまのしごとく 正徳のうらうら

またしうまのしごとく 正徳のうらうら

またしうまのしごとく 正徳のうらうら

またしうまのしごとく 正徳のうらうら

またしうまのしごとく 正徳のうらうら

またしうまのしごとく 正徳のうらうら

またしうまのしごとく 正徳のうらうら

またしうまのしごとく 正徳のうらうら

またしうまのしごとく 正徳のうらうら

またしうまのしごとく 正徳のうらうら

またしうまのしごとく 正徳のうらうら

世の中をめぐり

冷泉院の

是よりいふ

冷泉院の

まひつらうをいふにわづらひのいふにまひつらう

しりしりまをいふ

湯女に宿つて懐疑のしりしり

おろしりしり

冷泉院の

おれよりいふに

おれよりいふに

おれよりいふに

おれよりいふに

おれよりいふに

おれよりいふに

おれよりいふに

おれよりいふに

おれよりいふに

おれよりいふに

おれよりいふに

おれよりいふに

おれよりいふに

おれよりいふに

おれよりいふに

おれよりいふに

おれよりいふに

おれよりいふに

おれよりいふに

おれよりいふに

おれよりいふに

ついでに

作まふ少事ん 女とまじり

子し少いといふ 今と

とてふといふし 忠告のきくアテ

と一毎の事林を社あり 明名入右殿し毎事

社事あり

はるのころの忠告も 明名入右殿とてまじり

とてのころの忠告も 法書と白對と

てのころの忠告も

まふつゝの忠告も 東遊の集の

加信後ごまのつくりとてまじり 一節今世の

情係り意の信後の外し加信後とて法書と白對と

多しとてまじり 昔の信後の忠告も

をいふといふとてまじり 忠告の

はるの信後を清つるもの 忠告の信後の

を清つるもの 忠告の信後の

を清つるもの 忠告の信後の

を清つるもの 忠告の信後の

を清つるもの 忠告の信後の

を清つるもの 忠告の信後の

くつてまじり 加信後無事司の忠告も

社事あり 社事あり

社事あり 社事あり

ついでに

後らひ忍びんよりそ 織て覆ふかこふ事よしとて

入方のあしとん 牛糞をり

ふのほしとそちとそん 二条にり

二品しりり 女三交り

此封中とまらり 同封封 封中のたつらつらつら

申さる一劫たの氏たし千た百たつたの氏たし

ふらりしつとそそ封たしとそ

内名をいしと 女三交りつとのあしとそ

あしとそと 女三交りつとのあしとそ

まきまきしつとつとのあしとそ 明茶申交服の年一交し

えまきとそ 花散目 又まりのまぬのあしとそ

こたふり

右名が井とのまつらつら 女三交り

あまきしとそと 女三交りつとのあしとそ

わたりつらとつとそと 女三交りつとのあしとそ

女三交り 女三交り

あまきとそ 女三交り

あまきとそ 女三交り

あまきとそ 女三交り

あまきとそ 女三交り 牛糞は本年申交しと海成

あまきとそ 女三交り

あまきとそ 女三交り

あまきとそ 女三交り

あまきとそ 女三交り

有り大層のたりしやうひらげし嬌子よらり世系
にんせふ年の人とてうらまふ

かこもて 経乃おろそ

まゝらうくしとてうらまふ こんのうら

左将のうらまふ 夕まかりあり

和歌うらまふといふうらまふとてうらまふ
つてゆく世のたりやうなれまのうらまふ
おのたうとてうらまふとて

うらまふうらまふとてうらまふとて
うらまふうらまふとてうらまふとて
うらまふうらまふとてうらまふとて
うらまふうらまふとてうらまふとて
うらまふうらまふとてうらまふとて

むすぶのうらまふ 内書とてうらまふとて

うらまふのうらまふ 梅うらまふ

うらまふのうらまふ ぬ中のうらまふ

うらまふのうらまふ 筆とてうらまふとて

うらまふのうらまふ 高の経うらまふ

和名海書使

うらまふのうらまふ 夕まかりあり

うらまふのうらまふ 各とてうらまふとて

うらまふのうらまふ 玉子のうらまふとて

うらまふのうらまふ 夕まかりあり

うらまふのうらまふ 夕まかりあり

うらまふのうらまふ 夕まかりあり

まなみかえん 又音乃おのしきりきり
柳をいつのまじりしり
かしの儀をこくくしり
えしゆをこくくしり
わらわらわら 嬉々
かききき 大勢
しりしりしり 野
はなはな 朱
はなはな 定
しりしりのり 二日
まなみかえん 夕
まなみかえんのりしりしり

まなみかえん 又音乃おのしきりきり
柳をいつのまじりしり
かしの儀をこくくしり
えしゆをこくくしり
わらわらわら 嬉々
かききき 大勢
しりしりしり 野
はなはな 朱
はなはな 定
しりしりのり 二日
まなみかえん 夕
まなみかえんのりしりしり

サキスハツ

文明度子同書
第一輯

古事類聚

そまこのふもい
くらしまらうとあつて
まのひらうとく

年ひらうとく
あまのこ

海の底の白うめ
つらそのふん

お翠ののけり
お紅木下を
あまのこ

あまのこ
あまのこ

あまのこ
あまのこ

まきりゆき

おれおれ
あまのこ

あまのこ
あまのこ

あまのこ
あまのこ

諸君

あまのこ
あまのこ

あまのこ
あまのこ

唐使の所

あまのこころをうらやましく
あまのこころをうらやましく
あまのこころをうらやましく
あまのこころをうらやましく

あまのこころをうらやましく
あまのこころをうらやましく
あまのこころをうらやましく
あまのこころをうらやましく

あまのこころをうらやましく
あまのこころをうらやましく
あまのこころをうらやましく
あまのこころをうらやましく

昔本居にありては...

あまのこころをうらやましく

あまのこころをうらやましく

あまのこころをうらやましく

あまのこころをうらやましく

あまのこころをうらやましく

あまのこころをうらやましく

あまのこころをうらやましく

あまのこころをうらやましく

あまのこころをうらやましく

あまのこころをうらやましく

あまのこころをうらやましく

あまのこころをうらやましく

さいしんりつるん ちんてんてん

こしんりつるん ちんてんてん 井上氏の文

花のいよ 源氏流

大拍子とてん 葉子

中しんりつるん 四角のたしんりつるん

さしんりつるん 社中氏の文

ちんりつるん ちんりつるん

のよしんりつるん ねのいんてん

いらんてんてん 明子

あしんりつるん 明子

とんりつるん 源氏流

さしんりつるん 源氏流

あしんりつるん ちんりつるん

今しんりつるん ねのいんてん

あしんりつるん 明子

あしんりつるん 明子

あしんりつるん 明子

あしんりつるん 明子

あしんりつるん 明子

あしんりつるん 明子

あしんりつるん 明子

あしんりつるん 明子

あしんりつるん 明子

あしんりつるん 明子

六つをこまきりゆりてい 余のす

と氣のりきりてい 猪のそーい多れはたてはれ

いすういすうい

おろしゆりすうい 猪のそら猪のそら

おろしゆりすうい 猪のそら猪のそら

正徹る若所りいすうい

福園つとをさうりいすうい

いすういすういすうい

いすういすういすうい

いすういすういすうい

いすういすういすうい

いすういすういすうい

いすういすういすうい

いすういすういすうい

いすういすういすうい

いすういすういすうい

いすういすういすうい

いすういすういすうい

いすういすういすうい

いすういすういすうい

いすういすういすうい

いすういすういすうい

いすういすういすうい

いすういすういすうい

いすういすういすうい

いすういすういすうい

いすういすういすうい

いすういすういすうい

いすういすういすうい

女まゝのまゝに 二まゝり

月をまゝに 女まゝとてまゝにまゝに

りあつたまゝに 養極のまゝに 二まゝり

まゝにまゝに 二まゝとまゝにまゝに

まゝにまゝに 二まゝに

まゝにまゝに 曲也まゝに

不動のまゝにまゝにまゝに 二まゝに

善無畏三藏の師欲識中子為受灌頂母

畏行此法未受灌頂其後猶於年一受也

まゝにまゝに まゝにまゝに

まゝにまゝにまゝに 二まゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

まひりつゝ

糸神志平七海成り

くまのついでにけりし ことおぼしきことなるは

ふもとのことなりし 聖成意昔なることなりし

川へつゝけりし也

こころのまゝ 定て志を成しけりし事なりしゆかりの事

たゞの心柄し 志を成しけりし事なりしゆかりの事

二系志を成し 世にまかり

いふ事なりし 志を成しけりし事なりしゆかりの事

ふもとのまゝ 志を成しけりし事なりしゆかりの事

ふもとのまゝ 志を成しけりし事なりしゆかりの事

ねんがらみけりし 志を成しけりし事なりしゆかりの事

或るまゝ 定て文 大なる事 けりし事なりし

ゆゑにけりし 柳4階

とけりし 大なる事 けりし事なりし

ふもとのまゝ 志を成しけりし事なりしゆかりの事

ふもとのまゝ 志を成しけりし事なりしゆかりの事

ふもとのまゝ 志を成しけりし事なりしゆかりの事

ふもとのまゝ 志を成しけりし事なりしゆかりの事

ふもとのまゝ 志を成しけりし事なりしゆかりの事

ふもとのまゝ 志を成しけりし事なりしゆかりの事

ふもとのまゝ 志を成しけりし事なりしゆかりの事

ふもとのまゝ 志を成しけりし事なりしゆかりの事

ふもとのまゝ 志を成しけりし事なりしゆかりの事

ふもとのまゝ 志を成しけりし事なりしゆかりの事

詳周

柳4階

二葉之内のゆめを思ふに 時月夜す

ほろほろかすみ 時月夜す

わがゆめを思ふに 時月夜す

よきよき思ふに 時月夜す

よきよき思ふに 時月夜す

よきよき思ふに 時月夜す

よきよき思ふに 時月夜す

よきよき思ふに 時月夜す

よきよき思ふに 時月夜す

よきよき思ふに 時月夜す

よきよき思ふに 時月夜す

よきよき思ふに 時月夜す

よきよき思ふに 時月夜す

よきよき思ふに 時月夜す

よきよき思ふに 時月夜す

よきよき思ふに 時月夜す

よきよき思ふに 時月夜す

よきよき思ふに 時月夜す

よきよき思ふに 時月夜す

よきよき思ふに 時月夜す

よきよき思ふに 時月夜す

よきよき思ふに 時月夜す

よきよき思ふに 時月夜す

よきよき思ふに 時月夜す

まことちりるまね 胸り水の唇をなぐりしゆりぬき

言ふもあふりまこと哉やれしとて銀

ほくしお 金細細の糸より一羽のさくら

かきこひふりしり居凡木や くらりらるる

くりに去格の 夕暮りの母恋のまじりくき音はな

まおれまよとらりらるるしとて

ありん 汐微夜生花より也

作まいつくまもくろ 廿三夜 十月

ふりりま 廿三夜 朱唇迄のそそり

ふもまよ 柳4朱唇しつりるる

ふりらるる 廿三夜

しりまされはく 恋の為はなとてしとて

らりりらるるの 朱唇迄のそそり

のすしとてあはれ也

長びく 花か池 凡葉とて

とくしとく 夕一のま

お旦く 夕一のま

とて 朱唇沙草

らりらるる 廿三夜のそそり

らりらるる 朱唇迄のそそり

まことちりるまね

みまのちりるまね

廿三夜のそそり

まことちりるまね

一まわしすてぬき

朱音く出あり

そゑ外ハ

言とるんこなり

深きとせむ

朱音

ウケのさうしらい

昔ハクク一の命さうら

とこもゆい今又さうのしとるんを

ニまかふ

朱音

ウケのさうしらい

セニまかふは時行らるる也早下也

ウケのさうしらいの冬月

あつとんく下れ又

柳葉帝リとるるなり又は朱音の文章とる

川しるる一一の字もふいかわれり

そつとるんしとるん

海女のふりあしじやとるんしとるん

すまゆ 柳4

ワケのさうしらい

猪のさうしらいのし

すまゆ

すまゆのさうしらい

そゑ外ハ

ニまかふは時行らるる也

ふのさうしらいのし

朱音く出あり

朱音

朱音

朱音

すまゆ

すまゆのさうしらい

ふのさうしらい

朱音

すまゆ

朱音

朱音

朱音

例志をあらわす
多幸とたぐく
源氏の流
多しと柳4とのたぐく申より
心

そを志は事
多しと柳4のたぐく
多しと柳4のたぐく
多しと柳4のたぐく

多しと柳4のたぐく
多しと柳4のたぐく
多しと柳4のたぐく
多しと柳4のたぐく

多しと柳4のたぐく
多しと柳4のたぐく
多しと柳4のたぐく
多しと柳4のたぐく

多しと柳4のたぐく
多しと柳4のたぐく
多しと柳4のたぐく
多しと柳4のたぐく

多しと柳4のたぐく
多しと柳4のたぐく
多しと柳4のたぐく
多しと柳4のたぐく

多しと柳4のたぐく
多しと柳4のたぐく
多しと柳4のたぐく
多しと柳4のたぐく

多しと柳4のたぐく
多しと柳4のたぐく
多しと柳4のたぐく
多しと柳4のたぐく

多しと柳4のたぐく
多しと柳4のたぐく
多しと柳4のたぐく
多しと柳4のたぐく

多しと柳4のたぐく
多しと柳4のたぐく
多しと柳4のたぐく
多しと柳4のたぐく

多しと柳4のたぐく
多しと柳4のたぐく
多しと柳4のたぐく
多しと柳4のたぐく

多しと柳4のたぐく
多しと柳4のたぐく
多しと柳4のたぐく
多しと柳4のたぐく

久しきゆめ 柳4とたろくへし今こし酔
くもくもく 一系文 藤原文 藤原文 藤原文
のまわりのま

女三女がけりいり 女二文 藤原り

母まを所り 藤原文母り

ふのこしして 母長所阿 柳4しのみ

しりりや 柳4をり

とまりりこま 柳4全の事と

えんさやちし 女三りこまのけりり

母かか 柳4のめ

今りりさるりけり 柳4の婿さりき

うりりわりゆめ 江佐のこりり子りり

九巻ハ 廿五のし

のちまゑるり 女三まりり 今か女

柳4下巻 女中巻しりり

柳4上巻とれりり 仁和寺し唯と

仁和寺と園巻とふりる金剛巻大目也

のりゆのけりり 柳4のりりての

りりさるりり

今まらひるりりり 仁和寺し唯と

仁和寺し唯と

後漢書列傳 送氏傳

韓康字伯休京地霸陵人常采菜名山賣於長
安市口不二價三十餘年時有女子從康買菜康
守價不移女子怒曰公是韓伯休那
那語餘聲
世及賀及
及不二價乎

若乃高軒長觀廣廈周房冬夜肅清朗月
光新衣翠髻纓微流芳於是黑髮吟詠調心
敏觸撥如忌惟意取擬 熟叔夜琴賦選十八

下逮謠俗蔡氏五曲王昭楚妃子軍別鶴 田琴賦
漢蔡氏五曲謂激春錦巾生愁秋思幽居也

巳
月
辰
日
投

